

自律に向けた町づくり基本計画

人口の増加

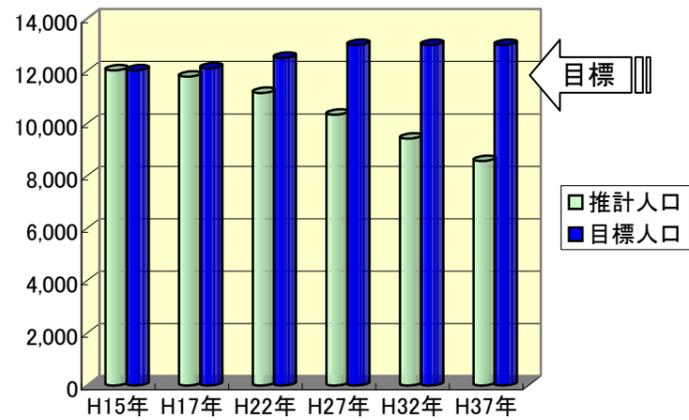
目標人口
10年後13,000人

- 1 後継者の育成
- 2 1ターンの積極的な受け入れ

年度	推計人口*	目標人口
H15年	12,023	12,023
H17年	11,786	12,100
H22年	11,164	12,500
H27年	10,332	13,000
H32年	9,421	13,000
H37年	8,569	13,000

推計人口*過去の国勢調査人口により推計した数値です。

自律に向けた町づくり計画の実施により人口の増加を目指します。



産業振興の町

1 基幹産業は農業

農林産物販売額 H15年55億円→H25年70億円

- 稲作は、食味を重視した栽培で、高級ブランドとして売れる米づくりを目指す。
- 畑作は、基幹野菜アスパラガスや春人参のような特徴（食味重視）が出せる野菜の作付を伸ばす。
- 津南こだわり農産株式会社（仮称）による販売対策
- 地産地消の推進
- 農地流動化センター（仮称）による計画的な農地流動化を図る。

食品加工 H15年20億円→H25年35億円

- 地元農産物の加工

認定農業者の育成 H15年177人→H25年240人

- 新規就農者の支援を行う。
- 魅力ある農業を展開する。

中山間地域の基盤整備の推進



2 観光産業の育成

入込み客数 H15年60万人→H22年80万人

- 観光協会を独立させ、専任の職員を雇用する。
- グリーンピア津南の公設民営化、マウンテンパーク津南の民営化
- 農業、食、自然、雪、癒しの体験をテーマとした観光プログラムの作成
- 町をイメージした統一観光看板の設置



3 雇用の創出で若者の定着を目指す。

10年後300人の雇用の増加

- 起業家の育成
- 特産品の研究・開発
- 企業誘致を行う。
- 商工業の振興



暮らしやすい町

1 充実した生活環境の町

冬期間も安心して生活

- 道路除雪の充実
- 屋根雪処理対策の充実

○雪処理ボランティアの組織化

定住環境の整備

- 道路網の整備促進（国・県・町道）
- 下水道水洗化率 H16年60%→10年後100%

災害に強い町づくり

- 地域情報化の推進（防災行政無線システムの更新）
- 役場職員による自動車予備隊（消防防災隊）の編成



2 健康で安心して暮らせる町

地域とともに支える福祉の町

医療体制の整備

- 広域連携の中での医療体制の整備
- 一次医療 津南病院、二次医療 中核病院、三次医療 地域基幹病院

寝たきり0（ゼロ）を目指し、健康寿命を延ばす。

- 病気予防の充実
- 生涯スポーツの推進



3 子どもがいきいき育つ町

子育て環境の整備

- H18年度から子育て支援センターの設置、児童館機能の構築
- ジュニア育成の充実

保育所の適正規模、適正配置による保育環境の整備

学校再編整備委員会による小中学校の適正規模、適正配置の検討

中高一貫校の誘致

二期制の導入



協働型社会を目指す町

集落あるいは小学校単位に地域づくり協議会（仮称）の設置

- 自分たちのことは自分たちで考え、実践しよう

住民参加の促進

- 事業計画の段階から住民が参加する仕組みの構築
- ボランティア組織の育成、NPO組織の立ち上げ



住民の痛み

1 使用料の見直し及び受益者負担の増

- 社会体育施設管理費負担金
- 春季農道除雪等負担金
- 農業廃棄物処理負担金
- 湯沢駐車場使用料
- なじもん入館料

2 各種行政サービスの見直しを行なう。

- 福祉サービス（対象者の絞込み）の見直し
- 補助率の見直しを行なう。

3 特別会計負担金の見直し

- （国保、老保、介護、簡水、下水道、農排）

4 ごみ処理料の有料化

- 5 入湯税を100円から150円に引き上げる。

行財政改革

1 職員人件費の削減

- 助役の収入役兼務
- 職員数の削減
- H16年158人→H27年 109人
- 職員給与・手当等の削減
- H16年11億5千万円
- H27年7億9千万円

2 事務事業の徹底した見直し

- 3 組織・機構の効率化とスリム化
- H16.10.1機構改革を実施